

段ボール市場に関する調査結果 2009

【調査要綱】

矢野経済研究所では、次の調査要綱にて段ボール市場の調査を実施した。

1. 調査期間:2009年7月～9月
2. 調査対象:段ボールメーカー、段ボール原紙メーカー、商社等
3. 調査方法:当社専門研究員による直接面談、電話・e-mail・FAXによるヒアリング、ならびに文献調査を併用

【調査結果サマリー】

◆ 2008年度の段ボール市場規模は132億㎡、2009年度は120億㎡を予測

2008年度の段ボール市場(段ボールシート生産高ベース)は前年度比5.1%減の132億1,100万㎡(経済産業省「生産動態統計」より引用)であったが、2009年度は前年度比9.1%減の120億500万㎡と見込まれる。

◆ 短・中期的な見通しは2010年度120億6千万㎡、2013年度125億5千万㎡と予測

2010年度の段ボール市場規模は120億5,700万㎡(前年度比0.4%増)、2013年度は125億4,600万㎡(2010年度比4.1%増)と予測する。

◆ 資料体裁

資料名:「2009年版 段ボール市場の展望と戦略」
発刊日:2009年9月30日
体裁:A4判 428頁
定価:107,100円(本体価格102,000円 消費税5,100円)

◆ 株式会社 矢野経済研究所

所在地:東京都中野区本町2-46-2 代表取締役社長:水越 孝
設立:1958年3月 年間レポート発刊:約250タイトル URL:<http://www.yano.co.jp/>

本件に関するお問合せ先(当社HPからも承っております <http://www.yano.co.jp/>)

(株)矢野経済研究所 営業本部 広報・PRグループ TEL:03-5371-6912 E-mail:press@yano.co.jp

本資料における著作権やその他本資料にかかる一切の権利は、株式会社矢野経済研究所に帰属します。
本資料内容を転載引用等されるにあたっては、上記広報・PRグループ迄お問合せ下さい。

【 調査結果の概要 】

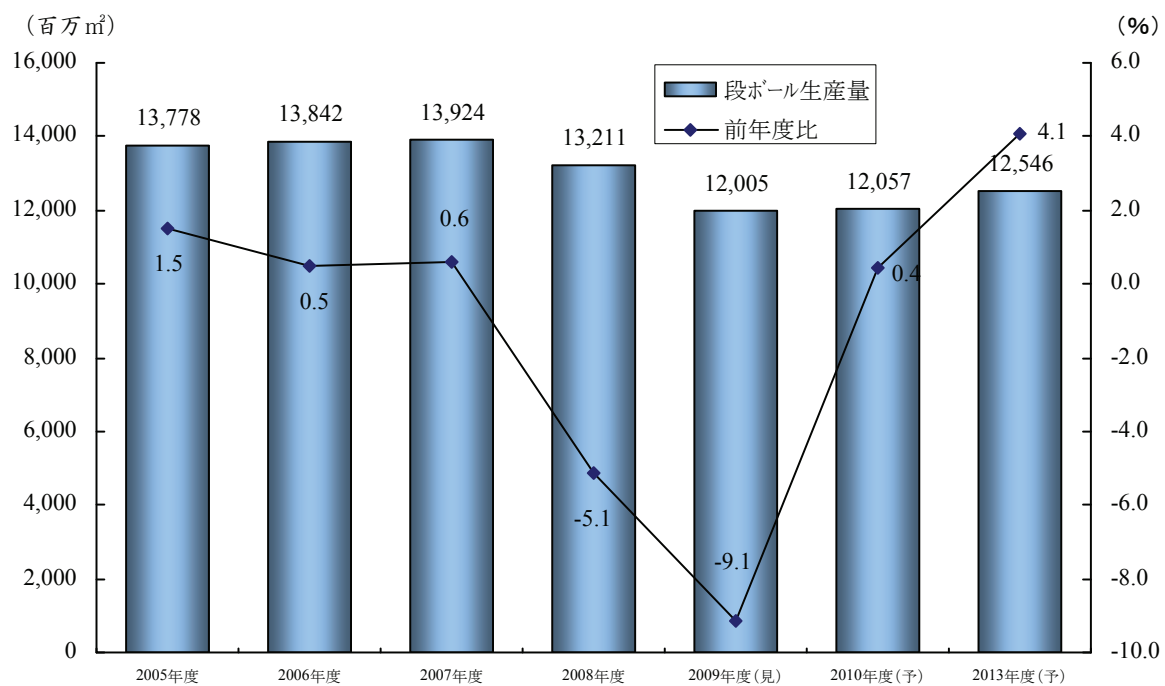
1. 段ボール市場の概況と将来展望

- 不況期中、2008年度段ボール市場規模(段ボールシート生産高ベース)は、前年度比5.1%の減少にとどまり(経済産業省「生産動態統計」より引用)、自動車、エレクトロニクス分野など他産業と比べた落込みは少なかった。これは、需要分野の約6割を加工食品、青果物など食品関連需要が占めていることが背景である。
- 一方、2009年度は急激な円高による輸出の減少など、電気・機械器具関連市場が大幅に悪化しており、段ボール需要にも深刻な影響を与えている。さらに、冷夏の影響により、段ボール需要を牽引してきた飲料や青果物向けの需要減は避けられないと見られる。この結果、2009年度の段ボール市場規模は前年度比で9.1%減の120億500万㎡と見込まれる。大手メーカーは、工場の閉鎖やコルゲータ^注の停止等、生産体制の再構築を精力的に進めている。
- 2010年度は景気が底入れし、消費財等の流通量の増加も期待できることから、段ボール市場規模は前年度比0.4%増の120億5,700万㎡と予測する。
- 2009年度の大幅な減少は急激な円高による輸出減や冷夏など一過性の要因に起因するものとみられ、中期的な見通しとして、2013年度には2009年度比4~5%の回復を予測する。その一方で、今後、ピーク時である2007年度(139億2,400万㎡)を上回することは難しいと見ている。

注:段ボールシートを貼合する製造装置

2. メーカー各社の動向

- 少子高齢化などにより長期的には消費財等の流通量の減少が見込まれることから、国内市場における段ボール需要の将来的な減少は避けられないと考える。段ボールメーカーは製造事業者向けには段ボール以外の包装資材も取り込んだトータルパッケージや、小売業向けには広告掲載やディスプレイツールとして販促資材となりうる段ボールの提案・開発も必要となっている。
- 段ボール市場は、段ボール原紙メーカーの集約に加えて、段ボール製品分野でも大手企業グループによる一貫メーカー体制が確立したことで、業界構造の安定化が図られた。これにより、過度な価格競争は減少し、原紙メーカー、シートメーカーともに収益を確保できる体制になった。一方、現状の設備過剰に加えて、今後、段ボール需要が右肩上がりに拡大することは難しいと見られることから、大手企業グループを中心とした系列化の進行や、グループ同士の提携、連携等も進んでいくものとする。また、プラスチックコンテナ等、段ボールに代わる素材の広がりも今後の段ボール需要を左右するものと推測する。

図1. 段ボール国内市場規模推移


注1: 2005年度から2008年度実績値は経済産業省「生産動態統計」より引用、2009年度以降は矢野経済研究所推計値

注2: 段ボールシート生産量ベース

注3: (見)は見込値、(予)は予測値